

未治療の先天性心疾患（非チアノーゼ性）

D. 卵円孔開存

1. 疾患名ならびに病態

未治療の先天性心疾患（非チアノーゼ性）

D. 卵円孔開存

胎児期に存在する右心房と左心房の間の交通孔（＝卵円孔）が生後も閉鎖せずに開存した状態である。心房中隔欠損症とは異なり、左心房から右心房へ流入する短絡量は無視できるほど少ないが、奇異性脳塞栓症（深部静脈血栓由来の塞栓子が右心房から左心房へ流入し、脳動脈を閉塞する脳梗塞）を生じうる。

2. 小児期における一般的な診療

◇ 主な症状

通常は無症状である。

◇ 診断の時期と検査法

心雑音の精査目的で行った心エコーで偶然発見されることが多い。

◇ 経過観察のための検査法

心エコー

◇ 治療法

通常、治療適応はない。

◇ 合併症および障がいとその対応

奇異性脳塞栓症（深部静脈血栓由来の塞栓子が右心房から左心房へ流入し、脳動脈を閉塞する脳梗塞）を生じうるとされるが、通常小児期にはみられない。

3. 成人期以降も継続すべき診療

◇ 移行・転科の時期のポイント

成人診療科（循環器内科）へ移行しやすい疾患である。患者側の理解が得られれば、移行は可能である。

◇ 成人期の診療の概要

心房中隔欠損症とは異なり、左心房から右心房へ流入する短絡量は無視できるほど少ないが、奇異性脳塞栓症（深部静脈血栓由来の塞栓子が右心房から左心房へ流入し、脳動脈を閉塞する脳梗塞）を生じうる。

4. 成人期の課題

◇ 医学的問題

心房中隔欠損症とは異なり、左心房から右心房へ流入する短絡量は無視できるほど少ない

が、奇異性脳塞栓症（深部静脈血栓由来の塞栓子が右心房から左心房へ流入し、脳動脈を閉塞する脳梗塞）を生じうる。

◇ 生殖の問題

妊娠・出産時の心負荷増大による懸念はないが、奇異性脳塞栓症（深部静脈血栓由来の塞栓子が右心房から左心房へ流入し、脳動脈を閉塞する脳梗塞）を生じうる。

◇ 社会的問題

疾患特有の問題はない。

5. 社会支援

◇ 医療費助成

病状によるが、特別な支援を要する疾患は少ないため、適応となるかどうかは個別に相談する必要がある。

〔文責〕

日本小児循環器学会移行医療委員会